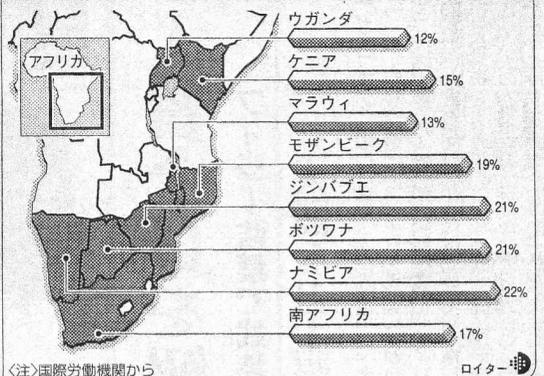


# 国際エイズ会議は訴える

# 貧しいからと死なせないで



## 治療の南北格差、拡大

「途上国の人々を、貧しいというだけで死なせてはならない」。南アフリカのダーバンで十四日まで開かれている国際エイズ会議は、その訴えている。会議は二年ごとに開かれ、十三回目でも初めて途上国での開催となった。それだけに、高価な医療に手が届かない貧しい途上国の思いを、ひときわ強く打ち出している。

（ダーバン〔南アフリカ〕 江木 慎吾）

エイズはエイズウイルス（HIV）だけが原因ではないのではないのか。開催国・南アのムベキ大統領は四月、政府の諮問委員会を受け、クリントン米大統領にその書翰を送ったとされる。この発言にエイズの撲滅を目指す会議は揺れた。

「HIVが原因であることに疑問の余地はない」。世界の科学者約五千人が、ムベキ大統領の疑義に反発する声明を発表した。エイズ治療は、HIVに照準を絞って研究が進められている。大統領の疑義は治療研究の根源に「貧困」がある

究体制の根幹を揺るがしかねないものだったからだ。世界で最も多くの感染者を抱える南アで、エイズの成り立ちに疑問を投げかけられれば、母子感染の防止体制の整備など政治が緊急に取り組むべき課題に遅れが出る。そんな懸念が非政府組織（NGO）などには強かった。

ムベキ大統領は九日の開会式で開会を宣言した。「HIV起源」への疑義について、説明があるのではという期待が高まった。しかし、大統領はすべての問題の根源に「貧困」がある

と話すところ、科学的な説明はなかった。エイズ研究で有名なデビッド・ホー博士は十一日、エイズ治療の最先端を説明する講演の中に、わざわざHIVの顕微鏡スライドを示し「これがエイズの原因です」と断じた。瞬間、大きな拍手がわいた。

治療の「南北格差」は四年前の会議から指摘されながら、むしろ拡大した。「私がここに立っていられるのは、たまたま目に四百の薬を買えるから。健康と活力を買えるから。健康があるからだ」。南アフリカの高裁判事でエイズ患者のキヤメロン氏は、十日の講演でこう述べた。最新の治療法を貧しい者にも届くようにしなければならぬのが、国際的な特許と貿易管

## 教育・社会支援で感染者減少も

ダーバンに住むマロロさん（左）は、兄の母だ。三人の子供もを産んで、自分もHIVに感染していることを知った。

「二人の男性とだけつきあってきた。感染するとは思わなかった。男性が主導権を握る社会で、性行為の際に避妊具を使うよう、

女性から要求するのは難しい」とも話した。治療は受けていない。「お力がない。両親も感染を知っているけど、治療を受けるとは言わない」。市内のキリスト教のケアセンターに通い、ピアサポートで家計を助ける。センターには、同様に信仰を希望のよりどころにする若者が集まる。エイズ会議で話し合われていることを、彼らはほとんど知らない。

UNAIDSによると、南アには四百二十万人の感染者が新たに感染し、五千人の

と指摘する。商標をつけない生産し並行輸入を利用すれば、約二百%に下げられるというのがMSFの指摘だ。

UNAIDSのピオット代表は記者会見で、アフリカなどの国々がエイズ対策費をねん出できるように、債務を帳消しにすべきだと、九州・沖縄サミット参加国に求めた。

15-24歳のHIV感染者、エイズ患者の比率が高い10カ国 (単位%)

国	女子 (%)	男子 (%)
①ボツワナ	34	16
②レソト	26	12
③南アフリカ	25	11
④ジンバブエ	25	11
⑤ナミビア	20	9.1
⑥ザンビア	18	8.2
⑦マラウイ	15	7.0
⑧モザンビーク	15	6.7
⑨中央アフリカ	14	6.9
⑩ケニア	13	6.4

〔ユニセフ「国々の前進2000」から〕



国際エイズ会議が開かれた南アのダーバンで12日、「債務帳消しでエイズ問題の解決を」とアピールする少年=AP

■ HIV・エイズまん延の推測 (大人は15歳以上)

	大人	女性
99年の新たな感染者	540万人 (470万人、230万人)	
感染・患者総数	3430万人 (3300万人、1570万人)	
99年のエイズ死者	280万人 (230万人、120万人)	
累計エイズ死者	1880万人 (1500万人、770万人)	
エイズで両親をなくした子ども	1320万人	

(国連エイズ計画の1999年末のまとめから)

□ 国際エイズ会議 今回防くか、予防の重要性などについて協議する。六日間の開催期間中、全体会議のほか約八百の会議、六十の関係者、製薬会社関係のワークショップ、四千三百の展示などがある。

防くか、予防の重要性などについて協議する。六日間の開催期間中、全体会議のほか約八百の会議、六十の関係者、製薬会社関係のワークショップ、四千三百の展示などがある。

今回の会議で取組みの成功例として引き合いに出されたのが、東アフリカのウガンダだ。アフリカ各国の感染者数が増える中で、減らすことに成功した。十三歳から十九歳の女性の感染率では、一九九〇年の四・五%から九六年には一・五%になっている。

ウガンダでは十年以上前から国、地方、宗教団体などでエイズ対策を続けている。①感染の全体像を把握し②教育によって性行動を変え③感染者を孤立させずに社会全体で支える――会議ではそんな教訓が共有されつつある。